

連載

新屋のアスリートたち (14)

サッカー日本代表選手で、主将も務めた 藤 島 信 雄 (前)

高校までは全く無名選手だった男が突然サッカー日本代表に選ばれ、「新屋出身」と報道され、新屋中驚いたことを皆様は憶えていますか？

藤島信雄は昭和(以下Sと表記)25年4月8日、鳥木町の東北パルプ社宅に住む藤島重太郎・キン夫妻の4人兄妹の3男として誕生。

子供の頃はバルブの大人たちから色々なスポーツを教わり、柔道や野球に興じていた。



のぼと山で級友たちと

日新小から日新中に進み、2年先輩で12話に登場した平澤周策に誘われるままサッカー部に入った。やっているうちどんどん楽しくなった。顧問の浜野先生がユニークだったのも一因だった。

ところが2年生になって浜野先生が異動し、指導者不在で部は活気が失った。しかし「藤島だけは一人でも熱心に練習していた」と同期生たちは口を揃えて褒めている。

西中を卒業して由利工に入ったのは、機械いじりが好きだったことと、学校が新しく設備も綺麗だったから。本当はレスリングをやりたいかったが由利工には無く、サッカーを選んだ。汽車通学だったので練習後は一汽車遅らせて苦手を左足の練習を続け、

遂に克服した。それに人一倍の練習量で、後に「ダイナモ(発電機)」に例えられた無尽蔵のスタミナが培われたのだ。高2になり、いつも大きな壁となっていた秋田商を破ってインターハイに出場。秋田県ベスト11にも選ばれた。



布団持参で合宿所へ

高3になって、学校に来た求人票で日本鋼管の初任給が他より1万円も高く、一番だった。学校で筆記試験を受け、6月には日本鋼管の工場へ見学と面接に向かう。内定をもらい「あとは部活をしつかり頑張ろう」と思ったが、秋商に敗れ公式戦を終えたのが11月。「これでサッカーに打ち込むことはないだろう。就職したらヘルメットを被って工場で頑張っ

て働こう」と思った。しかし「人生は糾える縄の如し」。思わぬ方向に運命が転がり始めていた。話は少し遡るが、先ず学校の近くに「マツダ」の販売所ができ、そこに元オリンピック代表選手の小沢通宏が営業で訪れ、序に由利工を指導。藤島のポテンシャルに注目した。さらに選手権に出た選手以外から

も「ユース代表」が選ばれることになり、藤島は小沢の推薦で全国52名のユース代表候補になったのだ。「シンデレラストーリー」の始まりである。

候補者の合宿でゲーム形式のテストがあり「期待されてないだろう」と思ったが、しっかりと対面の相手を抑えて、左足もしっかり蹴れた。体力テストもハードだったが、何とか残ったかったので必死にやった。ユース代表に選ばれ、新聞に掲載された。進路に日本鋼管と載っている、会社の人々がビックリ。履歴書を引っくり返して「あっ本当にいた」。その後、サッカーができる事務系に移るために、改めて面接が行われた。

S44年4月、バンコクでのアジアユースでは9年ぶりに決勝トーナメントに進出したが優勝候補のビルマに敗れた。国際試合には153試合出場したが、これが始まりであった。帰国後、日本鋼管では直ぐスタメン出場。それまでの日本鋼管は「出ると負け」状態で、前年は1勝もできなかった。

藤島はそんな中で直向きなプレーを続け、いつしかチームのエース的存在となる。運動量は日本リーグでもトップクラス。168cm・65kgと小柄ながら大きな相手を弾き飛ばす体力と気力もあった。中盤で相手のキーマンを封じ込め、ゲームをしつかり作った。この年、日本鋼管は6位。

初めて入替戦をせずにすんだ。翌年はB代表になったが、ヨーロッパ遠征のA代表とは違い、東南アジアの大会参加が多く、宿舎も学校の寄宿舎、天井をヤモリが這っていたり、シャワーはお湯が出ない状態、食事は何の肉なのか。「絶対A代表になってやるぞ」と心に誓った。

3年目のS46年にはA代表入りを果たした。以来S54年の夏まで殆ど代表として通算153試合、Aマッチだけで64試合出場し7得点を挙げている。ミュンヘンオリンピック予選にも出場した。まだ21歳「自分は器用ではないので、人より走って、運動の質と量を高めるしかない。そのためには練習しかない」と語っている。

S47年、コペンハーゲン・シテイを破った試合でも90分間変わらぬ動きで相手のエースを完全に抑え込んだ。日本が初めてイングランドのプロチームを破った記念すべき試合である。藤島は監督に絶賛され「ヤングスター」として日本代表の世代交代が進んだ一因となった。4年前、サッカーはもう終わっ

たと思った男は、日本代表にはなくてはならない存在となっていた。



相手エースのカイリー・カーを完全に封じる

用語解説

ユース代表…20歳以下のナショナルチーム
A代表…国際サッカー連盟が定める年齢制限のない代表チーム。年齢制限のあるのがB代表
Aマッチ…A代表同士で戦う国際試合

次号に続く (のぼこやま)